

大島町復興町民会議 産業・観光復興支援分科会報告（第1回～9回）

1. 開催概要

■毎週水曜日 18:00 開催 総委員数 19 人

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第1回	平成26年 5月14日（水） 18時～21時	① 島内企業の早期再建 ② 農業の早期再建 ③ 水産業の早期再建 ④ 観光振興の推進 ⑤ その他	・ 椿まつり期間乗船客数 ・ 分科会検討事項 ・ 大島町基本構想（抜粋） ・ 大島町基本構想後期基本計画（抜粋）	分科会委員 15 人 復興計画策定委員会 菊地委員
第2回	平成26年 5月21日（水） 18時～21時20分	① 第1回分科会の主な意見を受けて ② その他	・ 宿泊施設人員調査 ホテル他・民宿月別調べ ・ 夏季宿泊状況表（工業者等の予約・問い合わせ） ・ 早朝御食事処 元町中心街案内図 ・ 第1回分科会 主な意見 ・ 復興に向けての新聞記事（青山侑教授・白井岩仁氏） ・ 岡田港における船客待合所・津波避難施設の概要 ・ 弘法浜 海中部における流木・がれき等の撤去について【案】	分科会委員 15 人 都大島支庁 産業課長
第3回	平成26年 5月28日（水） 18時～20時15分	① 第2回分科会の主な意見を受けて ② その他	・ 第2回分科会 主な意見 ・ 分科会検討事項 ・ 分科会検討事項提案用紙 ・ 外部専門家制度 ・ 「地域おこし協力隊」について	分科会委員 16 人 都大島支庁 産業課長
第4回	平成26年 6月3日（火） 18時～21時	① 第3回分科会の主な意見を受けて ② 各委員からの提案について（今夏対策） ③ その他	・ 第3回分科会 主な意見 ・ 各委員から寄せられた意見等（テーマ別） ・ 分科会検討事項一覧	分科会委員 14 人 都大島支庁 産業課長
第5回	平成26年 6月11日（水） 18時～20時	① 第4回分科会の主な意見を受けて ② 各委員からの提案について（短期・中長期対策） ③ その他	・ 第4回分科会 主な意見 ・ 各委員から寄せられた意見等（短期・中長期） ・ 分科会検討事項一覧	分科会委員 15 人 都大島支庁 産業課長
第6回	平成26年 6月18日（水） 18時～20時50分	① 第5回分科会の主な意見を受けて ② 各委員からの提案について（短期・中長期対策） ③ その他	・ 第5回分科会 主な意見 ・ 各委員から寄せられた意見等（短期・中長期） ・ 分科会検討事項一覧	分科会委員 11 人 都大島支庁 産業課長（代理）
第7回	平成26年 6月26日（水） 18時～20時50分	① 第6回分科会の主な意見を受けて ② 中間報告（案）について ③ その他	・ 第6回分科会 主な意見 ・ 中間報告（案） ・ 各委員からの提案一覧	分科会委員 14 人 都大島支庁 産業課長

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第8回	平成26年 7月30日(水) 18時～20時15分	① 第7回分科会の主な意見を受けて ② 第4回復興町民会議以降に寄せられた意見を受けて ③ 大島町復興計画素案について ④ その他	・第7回分科会 主な意見 ・大島町復興計画素案(案)	分科会委員10人 都大島支庁 産業課長
第9回	平成26年 9月4日(木) 18時～19時15分	① 大島町復興計画案について ② その他	・大島町復興計画案	分科会委員9人 都大島支庁 産業課長 町民ガザバー

2. 主な意見等

	テーマ	主な意見等
第1回	進行について	○会長の選出 ・分科会会長：白井岩仁委員(大島観光協会会長)、副会長：白井嘉則委員(公募) ○分科会の開催日程について ・毎週水曜日18時から
	今夏対策	○弘法浜の海開き ・弘法浜の海開きに向けた海水浴場、周辺インフラの復旧 ・海の家営業や物販などの賑わいづくり ○島に呼び込む ・以前実施した「富士山キャッシュバック」の例を参考にした島内商品券の配布 ・キャンプ客やサイクリストなどターゲットを絞った客層への効果的な宣伝 ・宿泊客のうち建設業者と観光客の割合調整 ○島でもてなす ・元町港～野田浜から岡田港を結ぶバスの運行 ・地産地消の推進、そのための各事業者への補助 ・「おもてなし」の意識改革 ・早朝に営業している店舗の拡大と観光客への効果的な周知
	今夏以降の対策	・今夏対策からの取組みの継続性 ・既存キャンプ場以外にもキャンプ場を整備 ・子どもたちを安心して遊ばせることのできる遊泳場の整備 ・復興市場の開設
	中長期的課題	・農業、漁業、宿泊業など各事業者の高齢化、後継者問題 ・被災した神達地区の土地利用
第2回	今夏対策	○島に呼び込む ・観光客に向けてプレスを有効活用やメディアミックスによる積極的な情報発信 ・観光客への運賃補助等の実施 ・島内に還元する島内商品券の発行(大島町で検討中) ○島でもてなす ・弘法浜の早期復旧整備と海開きの開催(行方不明者家族への十分な配慮、説明、理解が前提) ・海浜清掃への積極的な呼びかけ、島全体での盛り上がり ・早朝営業実施店舗の周知、船客待合所内店舗の早朝営業と待合施設の活用 ・早朝営業の事業者への強制は困難 ・弘法浜周辺(元町)での復興市場の開設と海の家拡大、弘法浜プール跡地などでのイベント開催など賑わい創出
	今夏以降の対策	○三原山斜面地の活用 ・そのまま保全してジオパークとしての活用 ・椿の植樹にむけて差し穂提供意向のある農家がある ○中小企業の再建支援 ・メゾネット型公営住宅建設による中小事業者支援、職人への就業機会確保

		<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家（アドバイザー）制度の活用を検討 ・元町地区の宿泊施設のキャパシティの確保（各事業者への強制は困難）
	分科会からの提案・要望	<p>○弘法浜海開きの積極的広報（メディア等を活用）</p> <p>○間接被害を受けた中小企業への利子補給補助</p> <p>○観光客を呼び込むための補助制度、島内商品券の配布等</p>
第3回	今夏対策	<p>○島に呼び込む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弘法浜の復旧と海開きには例年の海の家に加えて、復興市場を出店 ・復興市場には被災事業者だけでなく幅広く出店者を募集 ・いろいろな種類の出店により、浜ごとの面白みを創出 ・今夏の運賃補助は時期的に難しいので、継続的な実施を要望 <p>○島でもてなす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝の食事提供には自販機などの活用も検討
	今夏以降の対策	<p>○三原山斜面地の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上部はそのまま、下部は植林など、段階的な利用も検討 <p>○外部専門家制度の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の募集は終わっているため、今後の課題とする
	農業、漁業の振興	<p>○地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウッドデッキなどへの町産材（杉）の活用 ・最新の冷凍技術の導入などによる海産物の売り出しと漁業振興 <p>○農業・漁業・観光が連携した取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者、漁業者も含めた復興祭の開催（被災者への配慮が必要）
第4回	今夏対策	<p>○島によびこむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島外でのキャンペーンを積極的に行うとともに、配布するチラシ・パンフレットに特典となる島内商品券の引換券をつけるなどの工夫を行う。 ・夏祭りなどのイベントカレンダーや観光情報の情報発信力の強化が必要。 ・今夏、意識を変える意欲をもって、まずはやる方向で検討することが重要。 <p>○島でもてなす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客への声掛けやレースイベントでの沿道応援対策などの実施を通じて、島に親しみを感じてもらい、リピーターとなってもらう。 ・地産地消のグルメメニューを発表する場の構築の検討 ・通行しにくくなっている既存観光資源へのアクセス路のメンテナンス ・弘法浜のビーチバレーコート整備の検討 ・港湾施設などにおける復興朝市などと農漁業者による物産展の合わせた実施
	今夏以降の対策	<p>○誰もが安心して利用できる観光施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全島的に子供たちが安心して遊べる海水浴場の検討 ・バリアフリー事業によるシャワー・トイレ改修の補助に関する周知
第5回	大島の強み・弱み	<p>○土砂災害遺構の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害をプラスにとって、安全対策を万全にし、島の特徴として発信する。
	短期・中長期対策	<p>○接客向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピックを控え、外国語での案内表記や窓口での外国語案内など、対策の強化・継続（特に出帆港の案内は日本人でも分かりにくい） <p>○農業振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都東京から一番近いロケーションを活かし、定住・認定農業者の増加を目指す。 ・生産したものを販売する仕組みに課題があり、行政の支援も必要 ・農業従事者・漁業従事者による産業祭的なものを検討 <p>○地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな加工品を開発するなど、行政の助けを借りながらも、生産側の努力も必要 <p>○顧客誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも来ていた大学ランナーの合宿などを大事にしていくことが必要 ・ランナーだけでなく、大島を研究している人の対応も必要。 <p>○交通手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裏砂漠へのアクセスについてバスの増発は難しいので、温泉ホテルとセットで考えるなど、別の方法でのアプローチを検討

第6回	短期・中長期対策	<p>○移住・定住促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は働き手世代が移住しやすい環境整備が必要（住居斡旋、職場紹介） <p>○観光資源の整備改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部歩道における舗装材の改良 ・ 公園の花壇の活用（島特有の植物を活かす、ボランティアなどの運営体制） ・ 御神火スカイラインの復旧と合わせた、元町～三原山山頂までの登山道の整備 ・ 椿を街路樹に使っているのは大島ならではのことで、チャドクガの抜本的な対策が必要 ・ 民間施設の改修等に利用できる各種助成制度の充実化・既存制度のPR促進 ・ 観光客や防災に考慮した分かりやすい案内看板の仕様・整備の提案 ・ 被災跡地を行政主導によるメモリアル的な場として整備 <p>○既存施設の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火山博物館の観光施設としての利用拡大
第7回	中間報告（案）	<p>○今夏対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目指すべき姿について、「島の安全性をPR」を「島で行っている安全対策をPR」に修正 <p>○短期対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島内企業の早期再建の推進における要望事項について、「運転資金金融資の利子補給」を「運転資金・設備資金の利子補給」に修正 ・ 来島者をもてなすための施設について、「火山博物館」を「火山博物館・郷土資料館」に修正 <p>○中・長期対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メモリアル的なモノの要望について、短期的な簡易なものを含めて検討することを追記 ・ 定住促進する魅力ある島の創出の要望事項について、「海水浴場の整備」を「海水浴場などのインフラ整備」に修正 <p>○各委員の提案一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告の前提にあった多くの意見は、これからの活性化のための1つの資料として大切になるので、添付する。
	分科会の今後のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当面、復興計画素案、案、計画策定に向けて議論 ・ 実現に向けた推進体制を整備する必要があるということ、復興計画策定時に分科会で決定してから解散することにより、新たな組織を立ち上げるきっかけとする。
第8回	復興計画素案への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『2 復興計画の基本理念・期間・構成について』（P. 2）について、被災者の生活や生業を一日も早く復興させること理念として明記すべき。 ・ 『今夏の重点的な取組』（P. 16）について、大島バスの夏季限定連絡バスは効果が出ているので、来年度以降も継続して欲しい。
	復興計画推進に向けての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『方針③ 水産業の早期再建と振興』（P. 14）の3-3-2 水産加工技術の向上と地産地消の拡大について、急速冷凍技術（CAS）の活用が始まっているので、定着するように各方面から支援をして欲しい。 ・ 『復興の推進体制』（P. 26）について、前期・中期・後期の施策は、優先順位を決めて実施していくことになる。来年度3月までの事業は早期に選択して、具体的に取り組んでいく必要がある。しっかり取り組む体制を検討して欲しい。また、今後の事業推進体制には、若い方たちの参加が望ましい。
第9回	復興計画案への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『3-4-4 岡田港周辺の環境づくり』『3-4-6 元町港周辺の防災性能強化』『3-4-8 岡田港、元町港周辺の環境づくり』について、事業が進行しているものもあるので、『検討します』という表現について再検討してほしい。 ・ 情報活用体制の強化では、通常の情報伝達手段が停電等によって使えなくなった際の情報伝達手段を強化していく必要がある。 ・ 『M-1-1 まちづくり事業手法の導入』について、まちづくり事業手法とは具体的にどのような事業を指すか。 ・ 復興計画は専門的な用語も多く記載されているので、最終的に用語の解説などを掲載してわかりやすくしてほしい。 ・ 『平成25年台風26号に伴う土砂災害 被害概要』について、他の災害との比較のため、流出した土砂や流木の量、被災した面積など記載してほしい。

	復興計画 推進に向 けての意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークを推進していきたい。大島の植生として大島桜のほかにタブの木もあり、樹形が美しいので公園などに植樹するなど活用したい。 ・商品券等について、利用促進のため、様々な方法を使って、引き続き、広報PRを行ってほしい。 ・デザイン性に配慮したまちづくりについて、被災エリアを中心としたまちづくりには、将来を見据えたデザイン性が取り入れられると良いと思う。 ・復興計画は、今後の事業推進の伏線になっているので、この計画を活用して、産業・観光復興の主体となる人たちが、具体的な事業の申請や提案を積極的に行っていく必要がある。
--	-------------------------------------	--